

校内研修計画

甲州市立塩山南小学校

1. 研究主題

“やさしく・かしこく・たくましく” ふるさと甲州を愛し、誇りに思う児童の育成

2. 主題設定の理由

甲州市は「人・自然・ふるさとを愛する甲州教育」を教育の基本理念に掲げ、甲州市の教育を推進している。本校は甲州市の中心部（旧塩山市）に位置し、教育に対し深い理解を有する地域や保護者の惜しみない支援、協力を受けながら、甲州市の伝統ある中心校として教育活動を展開している。

本校の学校教育目標は、「ふるさと塩山の自然と文化を愛し、主体的かつ意欲的に自己を創りあげ、社会の進歩に貢献できる知・情・意・体の調和のとれた豊かな人格の形成をめざす。」、そして、目指す子供像は、「やさしく・かしこく・たくましく」である。隣接する塩山中に倣い、「日本一あいさつができる塩山南小」にも取り組んでいる。26年度より3年間、「山梨県授業改善プラン実践事業」の推進校として、国語科、社会科を中心に確かな学力の育成の視点で、授業改善プランの実践、発信に取り組んできている。また、甲州市で推し進めている『『確かな学力』育成プロジェクト』の推進校としての役割を担い、算数、理科における授業改善プランを市内小中学校に提案してきている。さらに、本校は甲州市が推し進めている「地域に根ざした教育の推進」にも力を入れ、地域に根ざした豊かで多様な学習環境を構築し、創意工夫に満ちた教育活動の展開を図っている。

校区内はもとより、武田信玄の菩提寺、恵林寺がある甲州市は自然に恵まれ、菅田天神社（「小桜韋威鎧兜大袖付」）、甘草屋敷など、数多くの文化財を有している。こうした地域の歴史や文化、伝統を各教科等の学習素材として活用したり、教材として開発したり、体験活動を積極的に取り入れたりするなどして、地域のよさ、地域とのふれあいを子供たちがより強く実感できる取組を推し進めていきたい。学習を通して、先人たちが築いた伝統や文化を継承した人々の思いや生き方を学び、郷土や地域、家族や自分自身、そして、ふるさと甲州市に愛着、誇りを持つことを目指し、本主題を設定した。

3. 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- 地域の伝統・文化を取り入れた学習に関する理論研究、臨地研修と資料収集
- 身に付けさせたい力を明確にし、年間指導計画の作成、実践と検証
- 児童意識調査の実施
- 伝統・文化を尊重する学習環境の整備

(2) 具体的な内容

1. 国家・社会の発展に尽くしてきた先人の業績や働きや努力について進んで学ぶことにより、我が国や郷土の歴史に対する理解と関心を深める。
2. 我が国や郷土に根づいてきた伝統的な芸能や生活文化、産業の状況とともに、優れた文化財や文化遺産の意義を理解し、それらを継承・発展しようとする意欲や態度を養う。
3. わが国や郷土の豊かな自然環境を理解し、地域や国土の環境保全に尽くそうとする態度を育成する。

4. 家庭や学校，地域社会や国家，さらには国際社会の一員としての自覚をもち，よりよい社会の形成に進んで参画・貢献しようとする態度を育成する。
5. 国語，書写，社会，理科，音楽，図工，生活，総合的な学習の時間，道徳など，学校教育全体を通して実践を行い，ふるさと甲州を愛し，郷土に対する誇りを持つ態度を育成する。

□研究計画

研究主任 小椋 規雄

【伝統文化教育の視点を踏まえた教育課程の作成，及び実施・検証】

- 地域の歴史や文化，伝統にかかわる題材を教材として取り上げ，各教科・領域の年間指導計画を編成し，実施・検証を行う。
- 指導計画や授業案など，編成・実施・検証の際に作成した資料は，指導事例集として今後も活用できるようにする。
- 伝統文化教育の目標や目指す子供像を明確にするとともに，学習を通して身に付けさせたい力など，今日求められる授業づくりの視点も大切に授業づくり・授業改善を進める。
- 近隣の小中学校においても参考となるように，教材や事例を整理する。
- 児童・職員にアンケートを実施し，取組の検証を行う。

【作成した指導計画に沿った「地域とのふれあい」の推進】

- 作成した指導計画において，「地域とのふれあい」を取り入れることができる教材や事例を探り，指導計画の中に組み込む。
- 「地域とのふれあい」を様々な方法で授業等に組み込み，実践を重ねることを通して，伝統文化教育の視点を踏まえた教育課程における地域との協働の在り方を探る。
- 神社や寺，工場や駅などへ見学を依頼し，調査や体験したことをもとに成果と課題をしっかりと把握する。
- 伝統文化教育の視点を意識し，地域の人材バンクを作成・活用し，児童とのふれあい活動の方向性を模索する。

実施時期	研究内容，研究方法，成果の公開等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究課題，研究内容，研究組織，研究計画の検討（4月～6月） ・児童・職員を対象としたアンケートを実施・分析（5月～6月） ・伝統文化を踏まえた教育の全体計画，各教科・領域の年間指導計画の編成（7月～2月） ・校内研：指導案検討（7月～9月）※岡田調査官招聘
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高学年，特別支援学級のブロックに分かれ，伝統文化教育の視点を取り入れた授業づくりを行い，検証する。（9月～2月） ・伝統文化教育の視点を取り入れた授業を「一人一実践」として公開する。（9月～12月） ・伝統文化教育の視点を取り入れた学校行事，各学年の活動，児童会行事を行う。（9月～12月） ・1回目の学校評価を行う。 ・先進校研修視察（11月） ・校内授業研究会（10月～12月）※岡田調査官招聘
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化を踏まえた教育の全体計画，各教科・領域の年間指導計画の検証を行う。（計画した29年度の内容を検証する。） ・2回目の学校評価を行う。（2月） ・成果を確認し，研究のまとめを行う。（2月・3月）